

平成二十四年度 入学試験問題

国語

(第一回)

注 意

- 一、問題冊子と解答用紙が配られたら、まず**解答用紙の決められたところに受験番号、氏名**を書いてください。
- 二、試験開始の合図があるまで、問題冊子を開かないでください。
- 三、試験開始の合図があったら、問題冊子のページ数を確かめてから始めてください。
- 四、この問題冊子は、**十四ページ**あります。ページの不足や乱れがあったら、だまつて手をあげてください。
- 五、印刷のはつきりしていないところがあったら、だまつて手をあげてください。
- 六、試験終了の合図があったら、すぐに鉛筆を置いてください。
- 七、その後、解答用紙を集めますので、解答用紙を机の上に、表を上にして置いてください。
(問題冊子は持ち帰ってかまいません。)
- 八、国語の試験時間は**五十分**間です。(九時四十分を終了予定です。)

「一次の文章は、何のために勉強をするのか、という質問に答えたものである。これを読んで、後の問いに答えなさい。(字数制限のある問いは、句読点も字数に入れることとする)」

「勉強っていうのは、いろいろなことが、わかるようになるっていうこともあるけど、本当をいえば、わからないことだらけだね。でも、勉強っていうのは、わからないということに慣れる練習をしているんだ」。

学校を卒業して、社会に出ると、毎日が本当にわからないことだらけです。どんなふうに仕事をすればよいのか。将来の人生設計をどうすればよいのか。悩みは尽きません。

筋道を考えてよく計画をし、行動しようとしても、作戦どおりにいかないことが、しょっちゅうです。そもそも作戦や戦略を立てて何かをすることが成功するのは、社会の仕組みやルールがよく(1)セイビされていて、その中身を完璧に理解できているときだけです。でも社会はそれほど完璧ではない。筋道を立てようとしても、立てようがないのです。

(A) よくわからない社会を毎日生きる上で、もっとも大切なことはなにか。①それは「わからない」ということで、簡単にあきらめないことです。逃げ出さないことです。「わからない」から不安だとか、つまらないと思わない。むしろ「わからない」からおもしろいと思えるかどうかです。

(B) 毎日の生活で幸福に生きているかを点数ではかったとして、自分は百点満点だといえる人はどれくらいいるのでしょうか。でも百点でないから駄目だということでもない。五一点以上をなんとか取る。赤点(*1)さえとらなかつたら、前にはじゅうぶん進めます。いや、たまに(2)ラクダイしたって、かえって、それが後からふりかえってみると、長い目でみてよかったなんてこともある。

②学校の勉強と同じです。

わからないということに慣れる練習をしているというのは、考えてみると、教室での勉強にかぎったことではありません。部活動だって、そうでしょう。バスケットボール部でもっとシュートがうまくなりたい。でもどうすればもっと成功率を高くできるか、わからない。わからないから、あきらめ

ずに X 練習する。吹奏楽部だって、もっとうまく演奏できるようになりたいから、練習したり、先生や先輩、仲間のアドバイスを(3)シンケンに聞いたりする。中学校に限らず、学校での生活はすべて、わからないことに慣れる練習なのです。(中略)

私自身が希望学(*2)から学んだ一つは、「わからない」から逃げないことの大切さでした。そしてそれこそが、勉強や学問の意味だということを、あらためて思い知らされた気がしています。

しかし、わからないということは、不安ですし、つらいことです。特にわからない状態がずっと続くというのは、相当のストレスになったりします。よく社会の状況を説明するときに「Y」という言葉が使われますが、それも社会がどうなっていくか、先がわからないことによる不安を表すものでしょう。

しかし一方で、わからないということは、チャンスでもあります。わからないということから逃げ出さずに、その理由を明らかにしようとして行動することが、自分の進むべき道を照らしてくれることもあります。(中略)

たとえば進学を予定している高校生にとって、気になっていることの一つは、自分にとってどの大学の、どの学部に進むのが一番よいかということでしょう。進学先を選ぶときの基準として、通常考えるのが、偏差値を除けば、まずは自分の(4)テキセイです。つまりは、自分が得意で、自分が一番理解できそうな分野や学部を選ぶというものです。(C) 文系の生徒であれば、国語が得意な人は文学部とか、数学の得意な人は経済学に向いているといったようなことが、いわれたりします(私自

身も、高校時代に数学が好きだったことが、経済学部に進学した理由でした。

(D)、自分が得意だということを選んで世界にいざ飛び込んでみると、そこには自分よりもっとそのことが得意な人がたくさんいる事実にはじめて気づきます。自分の能力なんてたいしたことないのだ、ということに気づくまで、そう時間はかかりません。

私は、大学や学部を選ぶときには、自分が得意そうだという基準で選ぶことを、高校生にはあまりおすすめしません。

なぜ、わかることよりも、わからないことを大事にするほうがよいのでしょうか。自分がわからなくて、本気で知りたいと思って選んだ大学や学部には、自分と同じことをわからないと思い、同じように悩み考えている友人や先生が、きつといます。そこで出会った同じ「わからない」を(5)キョウユウ[ウ]しあえる仲間、先生を含めて、卒業した後も一生のゆるやかなつながりになったりします。

③わからないことの中にこそ、チャンスがあり、希望があるのです。

(「希望のつくり方」玄田有史)

(注) *1 進級するために必要な点数を満たさない点数のこと。

*2 筆者が取り組んでいる学問で、「希望」を社会の問題としてとらえ、研究していくもの。

問一 太線部(1)～(5)のカタカナを、漢字に改めなさい。

問二 「」で囲んだ部分は、どういう考えに対する反論でしょうか。次のア～エから最も適当なものを一つ選びなさい。

ア 世間で成功して有名な人になれるように、勉強する。

イ 社会の仕組みやルールを自ら築けるように、勉強する。

ウ ものごとを筋道立てて考えられるように、勉強する。

エ 将来の人生設計をどうするか決められるように、勉強する。

問三 傍線部①とあるが、『わからない』ということと簡単にあきらめない「こと」によって生じる問題点について、全体を読み本文の言葉を使って、書きなさい。

問四 傍線部②について、何がどういう点でおなじなのでしょう。解答欄の書式にあわせて四十五字以内で説明しなさい。

問五 空欄(A)～(D)にあてはまる語として、最も適当なものを、それぞれ次のア～オから一つずつ選びなさい。

ア しかし イ だとすれば ウ たとえば エ けっして オ そもそも

問六 空欄(X)、(Y)にあてはまる語として、最も適当なものを、それぞれ次のア～オから一つ選びなさい。

X	ア	テキパキ	イ	だらだら	ウ	バリバリ	エ	しぶしぶ	オ	コツコツ
Y	ア	けん怠感	イ	閉そく感	ウ	充実感	エ	不平等感	オ	嫌悪感

問七 次の文は、本文のある形式段落の最後から抜き出したものです。この文が入る直前の五字を答えなさい。

むしろ、自分が一番わからないと知っていること、前から気になって仕方のないことを基準に、進む先を決める方がずっとよいと思います。

問八 傍線部③とあるが、本文によればどういうことでしょうか。説明として最も適当なものを、次のア～オから一つ選びなさい。

ア 中途半端な知識は、かえって道を誤る元となることもあり、適度な開き直りが重要であると

いうこと。

イ 「わからない」ことがわかっているということが、本当の意味での「わかる」ことだ、ということ。

ウ 「わかる」人よりも、「わからない」人の方が数が多いので、結局は多数決となって有利であるということ。

エ 「わからない」を先生、仲間でわかちあうことで、自分の進路が明確になったり、助け合ったりできるということ。

オ 世の中の変化が激しい時代には、今「わからない」方がかえって新しい変化に対応しやすく、有利であるということ。

□ 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。（字数制限のある問いは、句読点も字数に入れることとする）

尾びれをゆらゆらさせながら、クロエは水面ごしに空を見あげた。よく晴れた、雲ひとつない青空だ。

すごくきれいな青。

クロエは思い出した。「色はみんなおなじように見えているわけじゃない」と聞いたことがある。小さいとき、おとしよりたちがおしやべりしているのをそばで聞いたのだ。意味はわからなかったけれど、不思議な話だったから、今でもおぼえている。

あれはどういう意味だったんだろう？

今、この空の青を、わたしはじぶんの目で見ている。だれでもじぶんの目でしか見られないんだから、おたがいにどう見えているかは、わからない。

「青」という同じ言葉でよんでいるけれど、それぞれ見ている色は、ちがうかもしれない。

そうか、そういうことだ。①クロエはきゆうにドキドキしてきた。

ギンコちゃんにすぐ話しにいかうと思った。ギンコちゃんは小さなころからの友達だ。

行くと、ギンコちゃんはほかの鯉たちとおしやべりをしていた。クロエはあわてて川底にある大きな石のかげにかくれた。

ギンコちゃんは楽しそうにしゃべっている。クロエはじつと待った。

しばらくしてほかの鯉たちがいなくなると、石のかげから出た。

ギンコちゃんはすぐにクロエに気がついた。

「クロエちゃん、おはよう」

「ギンコちゃん聞いて聞いて。今すごいことがわかったの」

クロエはいつきに話した。でもギンコちゃんはすぐにはわからなかった。

「それって、えっと、つまり」

ギンコちゃんはクロエがかくれていた石を見る。

「たとえば、その石はわたしには灰色に見えるけど、クロエちゃんには灰色に見えないってこと？」
「ううん、わたしにも灰色に見えるよ。でも生まれたときから、おたがいにその色を『灰色』だとおぼえているでしょ。だけど、おたがいの見えかたを(1)タイケンすることはできないから、わたしが見ている灰色と、ギンコちゃんの見ている灰色は、ちがう色かもしれないの。もしかしたらギンコちゃんの灰色は、わたしにとつての黄色かもしれない。でもそこは永遠にわからないのよ」

「あつ、そうか」

ギンコちゃんがうなずいた。

「おなじ灰色だつていつても、見えている色はちがうかもしれないってことね。わあ、おもしろいね！」
クロエはうれしくなった。

それからクロエとギンコちゃんは、ちよつと(2)サンサクに出かけることにした。

上流にむかつてのんびりおよぎ、ススキのはえている川べりまで行った。

川底の砂地から水がわきでているところがあつた。ときどき空気がまじるらしく、小さな泡が出てくる。

泡がぷくぷく出ているまうえに行つて、からだに当てた。二人はきやあきやあ笑つた。

「くすぐつたくておもしろいね」

「ほんとにおもしろい」

クロエは、はつとした。

「今の『おもしろい』っていうのも、さっきの色とおなじかもしれない」

「え？」

ギンコちゃんがふしぎそうにいった。

「おもしろいは、おもしろいだよ。それはおなじでしょ」

「でも、すごくおもしろいか、ちよつびりおもしろいか、これまで味わったことがないおもしろさか、なにかに似ているおもしろさとか、いろいろあるよ」

「そういえばそうだね」

新しい発見にクロエはまたうれしくなった。

「だから、おなじ『おもしろい』も、ちがうかもしれないんだよ」

②ギンコちゃんがだまりこんだ。

「ギンコちゃん、どうしたの」

「なんかちよつと」

「なんかちよつと、どうしたの」

「なんかちよつと……、さびしくなっちゃった」

クロエはびつくりした。

「なにがさびしいの？」

「だつて、『おもしろい』っていいあつても、ほんとうはわかりあつてないってこと？」

クロエはあわてた。

「ちがうよ、そんな意味じゃないよう」

でもいいながら、ちよつと自信がなくなる。もしかしてそういうこと？

クロエもギンコちゃんもだまりこんだ。

砂底からまたぷくんと泡が出て、まっすぐ水面にむかつてのぼっていき、はじけた。

「そろそろ、帰ろうかな」

ギンコちゃんがいった。クロエもうなずいた。

「うん」

もとの場所に帰ってくると、ギンコちゃんが思い出したようにいった。

「そういえば、お昼すぎに橋からパンをまくにんげんが来るらしいの。クロエちゃんもいつしよに食べにいこうよ」

「わたしとギンコちゃんだけで？」

「ほかの子たちも来るけど」

「じゃ、やめとく」

ギンコちゃんはがっかりしたようだけれど、なにもいわなかった。

クロエはむれるのが、だいきらいだ。むれた子たちはかならず、だれかをはじきだそうとする。そしてそれはきまつてクロエの役だ。

小さなころからクロエは(3)リクツつぼくて変わっているといわれて、ずっと(4)イジワルされてきた。そんなことをしないのはギンコちゃんだけだ。(中略)

(作問者注Ⅱある日、クロエは、ギンコちゃんが他の鯉たちから、「クロエと遊ばない方がいい」と言われているのを目撃する)

次の日から、クロエはギンコちゃんのところに行かなかった。なんどもしゃべりたいと思った。でも行けばギンコちゃんもこまる。(中略)

ある日、泡の帰りみち、ギンコちゃんが川の反対がわを泳いでいるのを見た。

ギンコちゃん！ ひさしぶりに見るギンコちゃんだ。

ギンコちゃんもクロエに気がついた。でもすぐに顔をそらし、ほかの鯉たちといっしよにまっすぐ、およいでいった。

クロエはそのまま下流まで行った。にんげんが捨てたあみがそのままになっているところがある。ひつかかるとあぶないから、ほかの鯉たちはめったに來ない場所だ。

あみのうえにちよつと、よこたわつてみる。

からだの半分が、空気にさらされて苦しい。川ぞいの道を走る車の音も、(5)ランボウでこわい。空も水面ごしに見るのとちがつて巨大で、今にもおしつぶしてきそうさ。

それでもクロエはよこたわりつづけた。

「たすけて」

かぼそい声がした。じぶんがいったのかと思った。でもそんなはずはない。また「だれか、たすけて」と声がした。

クロエは水のなかにもどった。あみのはしに鯉がひっかかっている。クロエとおなじ、墨色をしたおばあさんの鯉だ。クロエはあみにかからないように気をつけながら、おばあさんにちかづいた。鼻

さきをつかって、おばあさんの尾びれと、ひっかかっているあみをはなした。

「ありがとう」

おばあさんはほっとしたようにクロエを見た。

「あなたも、あみにかかってしまうかもしれないのに、なんて強い子でしょう」

そういうと、おばあさんはよろよろ、およぎだした。

強い子じゃない。

③クロエはおばあさんを見送りながら、泣きそうだった。
でも、強い子になりたい。

水面ごしに空を見あげると、すっかり日がくれて、ふかい紺色をしている。

④この紺色を、わたしが見ているんだと、クロエは思った。
ふかく息をはいた。

わたしは、わたしだ。ほかのだれでもないんだ。

住みかにもどったクロエは、毎日ひとりでおよぎ、食べものをさがし、空を見て、ねむった。「ほんとうはわかりあっていないってこと？」というギンコちゃんの言葉もなんども考えた。

ある日、川底から出る泡を見にいった。大きな泡がひとつわいて、きらりとうかんだ。

うしろで気配がした。ふりむくと、ギンコちゃんがいた。はずかしそうにだまつている。クロエもすぐに話せない。

ギンコちゃんが、小さな声でいった。

「⑤今の気持ちがおなじだといいな」

クロエは **A** がいっぱいになり、ギンコちゃんのまわりをくるとまわった。

「おなじだよ」

そのとき、ひらめいた。おなじ言葉だけではわからないから、もっとわかりあいたくなるんじゃないかな？

そうだ、きっとそうだ。すぐにギンコちゃんに話さなきゃと、クロエは思った。

(「そらの青は」魚住直子)

問一 太線部(1)～(5)のカタカナを漢字に改めなさい。

問二 傍線部①とあるが、なぜドキドキしたのかを説明したものとして、最も適当なものを次のア～エから一つ選びなさい。

ア 空の青さが今まで見たことがないくらい、美しいものであったから。

イ 空の青さについてクロエが考えたことが、恥ずかしいことであったから。

ウ 空の青さについて、ギンコちゃんが考えていることと異なることがわかったから。

エ 青い空を見て、以前おとしよりが言っていたことが、今理解できたから。

問三 傍線部②とあるが、ギンコはなぜだまりこんだのでしょうか。五十字以内で説明しなさい。

問四 傍線部③とあるが、クロエはなぜ泣きそうだったのでしょうか。六十字以内で説明しなさい。

問五 傍線部④とあるが、この時のクロエの状況を説明した次の文章の空欄 **a** **く** **d** にあてはまるものとして、最も適当なものを、それぞれ次のア～エから一つ選びなさい。

自分の考え方と、他者の考え方との **a** について悩んでいたクロエであったが、自分では自分であって **b** ということに気付いて、 **c** な気持ちに変化している姿について、紺色の空、という情景描写を、 **d** に用いて表現している。

- | | | | | |
|---|-------------------|--------------------|-------|-------|
| a | ア 類似 | イ 不一致 | ウ 矛盾 | エ 対立 |
| b | ア 自己中心的に考えてもかまわない | イ 他人と同じである必要はない | | |
| | ウ 強い子でなくてもかまわない | エ 他人と仲が悪くなってもかまわない | | |
| c | ア 投げやり | イ 消極的 | ウ 強気 | エ 前向き |
| d | ア 象徴的 | イ 擬人的 | ウ 直接的 | エ 具体的 |

問六 傍線部⑤とあるが、今の気持ちとはどのようなものでしょうか。最も適当なものをア～オから一つ選びなさい。

- ア 見方、考え方は人それぞれなのだから、無理に同じようにする必要はないという気持ち。
 イ どんなに仲がよくても、お互いの気持ちはわかりあえない、と残念に思う気持ち。
 ウ 仲直りして、以前と同じようにいっしょに遊ぶことができればいいという気持ち。
 エ 相手の気持ちを理解せず、とても申し訳ないことをしたと、あやまりたい気持ち。
 オ みんな仲良くすべきなのに仲間はずれにするのは、とてもよくないと思う気持ち。

問七 空欄 A にあてはまる、漢字一字を答えなさい。

問八 この文章の特徴を説明したものととして、最も適当なものを、次のア～オから一つ選びなさい。
 ア それぞれの鯉たちの、それぞれに異なる気持ちだが、会話表現を多く用いながら、詳細に表現されている。

イ 簡単な会話表現が多く使われ、他者との関係にゆれ動く主人公の鯉の気持ち丁寧に描かれている。
 ウ 親友との衝突から和解に至るまでの心情が、比喻を的確に用いながら、たくみに描かれている。

る。

エ 過去を振り返ることで、現在の生き方に新たな意義を見出す主人公が、写實的に描かれている。
 オ 難しい友達関係の中で悩みながらも、明るく前向きに生きて行く主人公が情熱的に描かれている。

問題は以上です。

平成二十四年度 国語

第一回解答用紙

※印の欄には何も記入しないでください

受験番号

氏

名

一

問一

(1)

(2)

(3)

(4)

(5)

問二

問三

問四

という点で学校の勉強と同じである。

問五

A

B

C

D

問六

X

Y

問七

問八

二

問一

(1)

(2)

(3)

(4)

(5)

問二

問三

問四

問五

a

b

c

d

問六

問七

問八

※

※

※